

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873000053		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホーム いっしん館 いなり		
所在地	茨城県かすみがうら市下稻吉1668-6		
自己評価作成日	2019年9月8日	評価結果市町村受理日	2020年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0873000053-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2019年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入所したからといって今まで楽しみとしていたことややりがい、役割などが無くならないように、一人一人の個性を活かしてその人に合ったケアやレクリエーション等を実践し、日々の生活にメリハリをつけ結果的に自立支援や生活の質の向上に繋がることを目標に支援させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年設立の、幹線道路より少し入った住宅地の中にある事業所である。日々の散歩や買い物で地域の方と挨拶を交わし、店員さんとは顔馴染みとなっている。地域のかすみがうら祭りや敬老会、小学校の運動会に参加している。いっしん館全体の靖国神社参拝・運動会・将棋大会・歌謡ショー等のイベントに参加している他、事業所独自に月に1~2回、利用者が刺激を受け、楽しく過ごせるような外出支援に力を入れている。職員は法人全体の研修や資格取得の研修、外部研修に事業所負担で参加が出来、サービス向上にも繋がっている。管理者と職員は利用者の尊厳、個性を大切に、穏やかな生活が出来るように利用者一人ひとりに寄り添った支援に取り組み、職員同士が仲良く、利用者も巻き込んで笑顔にあふれている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の基本理念・いなり館としてのユニット理念をもとに職員一人一人がこれを念頭に置いて業務にあたっている。	管理者と職員は法人の10則と、事業所の『笑顔で楽しく』の理念を心がけている。アルバムを見るのが好きな利用者にはアルバム作り、犬が好きな利用者には職員が愛犬を連れてきたり、百里基地の航空ショーや外食等の個別外出支援など、利用者一人ひとりの思いを大切に、利用者が笑顔で楽しく過ごせるように支援している。職員からは自分も楽しんで利用者さんにも楽しく過ごして頂くようにしているとの話があった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の散歩時には、近所の方に挨拶をし交流を図っている。	地域のイベント(かすみがうら祭り・敬老会式典等)・法人のイベント(運動会・歌謡ショー)等や散歩・買い物で顔見知りの方と挨拶をし交流を図っている。ボランティアのおやじバンドの訪問があり、演奏に合わせて歌うことを利用者は楽しみにしている。自治会員に緊急時はホームのAEDが使用可能であることを地区長さんを通して伝えた。犬が好きな利用者の為に、ドッグセラピーが検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	養成講座から実習生を受け入れ、実習が終了した後も気軽に来館して頂けるような環境づくりを心掛けている。また、地域の理髪店を利用する際にもお店の方に理解をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様のご家族様や利用者様を交え2ヶ月に一度のペースで開催し、ご意見等を積極的に施設の運営に取り入れています。	2ヵ月ごとに、利用者・家族・地区長・民生委員・医療機関・行政・事業所関係者で開催している。開催日は家族に合わせて調整。行事報告・今後の予定・利用状況・時期に合わせた勉強会(今回はレビー小体型認知症について)質疑応答の内容で開催している。欠席された家族には議事録を郵送、職員には会議で報告し共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所が近所にあるので、折に触れ訪問し施設の状況や利用者様の状況をお伝えし、介護相談員の方とも情報交換を行うことで施設の運営に生かしている。	担当課(社会福祉課・介護保険課・包括支援センター・社協)とは連絡を密にとり、良好な協力関係を築いている。市の介護相談員と情報交換を行っている。小学校の街探検や中学校の体験学習を受入れ、運動会に招待されて見学に行った。地域のイベントのかすみがうら祭りや福祉祭りでは、ブース(いっしん館)を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、マニュアルを整備し新人の職員を教育する際には勿論のこと、身体拘束に理解を深めた上でケアを実践している。また、身体拘束委員会を設置し3か月に1度身体拘束について理解を深める取り組みをしている。	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、身体拘束等の適正化の為の指針を整備し、委員会を立ち上げて3か月に1回会議を開催し、拘束せずに利用者の安全・安心に向けたケアに全職員で取り組んでいる。委員会の資料は全員に配布し、研修も実施している。玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケース記録・申し送り・業務日誌などを活用し一人一人の細やかな対応を心掛け、資料や社内研修を通して虐待とは何かを話し合ったりし、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市役所・病院・地域包括などから情報を収集し理解に努めています。また、以前制度を利用していただいていた利用者様がいらっしゃいましたので参考にさせて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時には、十分な時間をお取りし事業所のケアや取り組みについて説明した上で対応可能な範囲についても説明している。また、ご家族様の要望をお聞きし理解、納得して頂いた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に定期的にお手紙を出し、利用者様の状況報告をしている。また、来館時には積極的にお話をお聞きし話がしやすい雰囲気作りを心掛けている。問題が起きた際には、早期解決が出来るよう迅速に対応している。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から要望を聴き、利用者の思いに添えるような支援をしている。家族には、面会・運営推進会議・電話連絡の際に意見や要望を聴くように努めている。出された意見や要望等は、その都度管理者・職員で話し合い、運営に反映している。定期的に各利用者毎に写真付きでお便りを発送して状態報告をしており、家族からの質問等にも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンスやミーティングを開くことで職員の要望や意見を聞き取り、職員がストレスや不満を抱えることなく働いていける環境作りに努めている。	管理者は職員が何でも話せるようにコミュニケーションを図っているほか、職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。利用者に対するケアは会議で話し合っている。管理者は、職員から要望があった洗濯機と乾燥機を設置し、希望する研修を受講できるようにするなど、働き易く、働き甲斐のある環境整備に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日常的に職員とのコミュニケーションを図り意見など聞くようにし、やりがいや向上心を持って働けるようサポートしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマを決め定期的に社内研修を行っている。なるべく多くの研修に参加し、情報共有に努めています。また、社外の研修に関してはスタッフが自主的に受けたい研修を申告すれば受けられるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の他事業者様のイベントに参加したり、交流を図っている。研修などに参加した際には意見交換を行うことで質の向上に努めています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前相談により、利用者様の生活面などの把握に努め、職員は入居と同時に資料を活かした関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は勿論のこと、入居時にも本人様・ご家族様の希望などをじっくりと話していただけるように一日も早く利用者様の事が理解できるよう努めている。入居後もこまめに連絡を取り、安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方らしく生活が出来るように、職員がコミュニケーションを取り、臨機応変に対応することでよりその方に合った支援が行えるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を送る中で、洗濯物や食後の片づけ、ホール内の掃除など無理のない程度に行って頂いたりと支えてくださっている。また、レクなどで外出する機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節ごとの行事に、お便り等を通してご家族様へ連絡しお誘いしている。来館時にはご本人様とご家族様がゆっくり過ごせるよう環境作りにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	中学校の運動会など、地域のイベントへの参加や古くからの友人などが来館し交流が出来るように支援している。	遠方の親類と手紙・年賀状・電話で関係が途切れないよう支援に努めている。お便りで家族に運動会や靖国神社参拝等のイベント参加を呼びかけている。馴染みのお店に買い物や理髪店、衣料品店に行く。夫婦で別々のホームを利用している方がおり、面会などの支援をしている。これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士が、交流しやすいようにホール内にソファやテレビを設置している。好きな場所で一人一人が過ごして頂けるような環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他館に移動された方でも、各行事参加を通して関係を築いている。契約終了された後も、いつでも連絡が取りあえる状態になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の思いや希望を尊重した生活をして頂けるように努めている。コミュニケーションが困難な方にも、生活歴やご家族様からのお話を聞き、その方らしい生活が送れるように支援している。	将棋が好きな方には将棋を、犬の好きな方には職員が自宅で飼っている犬を連れてきて一緒に過ごして頂き、掃除の好きな方には掃除の手伝いをして頂く。お酒の好きな方にはお酒を、パチンコが好きな方にパチンコ店に行く支援をする他、利用者の好物であるコーラやビール提供など、利用者の思いを大切に支援がなされている。また、一日の生活の流れは利用者本位に支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ皆が利用者様一人一人の生活習慣に沿った支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や業務日誌、申し送りノートを活用し業務に入る前にそれらを確認している。また、朝礼、夕礼時に状況報告を行い、状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の意見を取り入れ、より良い生活が送れるよう、介護計画を作成している。毎月のケアカンファレンス時に日々の状況を上げ、今後の課題として明らかにしている。	利用者の思いに沿ったきめ細かな具体的な支援内容のプランとなっており、経過記録もプランに沿った記録となっていた。家族には介護計画を立てる前に書面にて要望を頂いている。ケアカンファレンスを1か月毎に開催し、モニタリングを実施して評価に繋げている。プラン作成後は家族に郵送し、承諾を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全スタッフが情報共有できるように、日中・夜間の様子をケース記録に記録している。必要な点に関しては申し送りや業務日誌にも記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームや・有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅・住型有料老人ホームがあり、利用者様の身体の状態に応じて利用して頂く施設を提案させて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員が定期的に来館し、助言やアドバイスをいただいている。また、近隣の中学校の職場体験やボランティア活動の受け入れも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず利用者様やご家族様の希望を確認した上で、その時々状態に合わせた医療機関を受診し支援を行っている。	協力医療機関(精神科・外科・内科・歯科・眼科)の往診あり、体調管理に努めている。体調変化時は往診で対応。専門医の受診対応も可能となっている。薬の変更(内科)は電話かお便りで連絡している。家族付き添い場合は、報告を受け、個人記録に残し職員と共有している。	往診受診記録に家族連絡欄があるが、記録がない(内容は記されている)。連絡日・連絡者・家族(誰に)を家族連絡欄に記入することが望ましい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な往診時に相談を行っている。協力医療機関とはいつでも連絡、相談が行える体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が安心できるように、こまめに面会を行い担当医や看護師に状態の確認を行うのと、早期退院できるように連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から現在に至るまで、その都度ご家族様との話し合いの機会を持っている。重度化、状況変化が見られたら医師、ご家族様と相談し最善の方法が得られるよう職員全体で話し合い取り組んでいる。	基本的に看取りは行わないが実施した事はある。契約時に重度化や終末期に向けた方針を説明している。重度化に伴うケアの方針は医師の指示に基づき、本人・家族・職員と十分な話し合いを行い、本人・家族の希望に沿った支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的なことは入社時に教育を行い、それ以外にも救命救急の講習を受けて備えている。また、AEDの講習も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定した避難訓練を年に2回実施している。内の1回は消防署の立ち合いにて行い、消火器講習も行っている。また、避難訓練を行う際、近隣へ訓練の報告をし、見学、参加の受け入れを行う。	消防署指導・自主訓練を年2回実施(夜間想定・初期消火・緊急通報システム・避難経路・利用者行動把握等)し、近隣に訓練前に知らせ、見学・参加を呼びかけている。自然災害・事故マニュアルも整備。備蓄品・緊急持ち出し用品も整備。災害時の避難場所も家族に知らせている。家具類にはストッパーを付け地震時に倒れないようにしている。コンセントの点検は毎日実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活スタイルに合わせて、状況によっては立ち入りすぎないように配慮を行っている。	玄関入口の写真掲示や居室の名前表示に承諾を得られない方には配慮している。人によっては触れてほしくない部分もあり、注意を払っている。個人情報に関する書類は事務室に保管し、情報漏洩がないよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のご家族様や利用者様を交え2ヶ月に一度のペースで開催し、ご意見等を積極的に施設の運営に取り入れています。お話を基に信頼関係を築くとともに、意志の尊重と決定権を利用者様に委ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活に合わせている。四季の行事や習わしなども取り入れ、その方の希望を尊重している。また、個別レクなども行い、利用者様一人一人の要望に柔軟に応えられるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近くの洋品店へ買い物と一緒に出掛けたり、理容室に出かけている。(移動美容室も活用している)日々のお着替えの際にもご自身で服を選んで頂き、オシャレを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望を取り入れたり、季節の旬な食材を取り入れている。手伝って頂ける方には準備や片づけをお願いしている。また、外食レクなども行っている。	1週間毎に利用者の希望を取り入れた、季節の食材を使った献立がされ、利用者の状態に応じた形態で提供している。一緒に買い物に行ったり、下準備や下膳を手伝う利用者がいる。外食希望があった時は個人対応している。出前(ピザ等)を取る時もあり。誕生日にはケーキ作りをしたり、クッキーやゼリーなどのおやつ作りを行う。職員も一緒に食卓を囲み、食事介助も静かに行われ、会話をしながら和やかな食事風景であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量をチェック表に記入し接種状態を把握している。栄養バランスが偏らないよう、調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診で定期的に診て頂き、指導を受けている。それを基に毎食後の口腔ケアの支援に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを可能な限り把握し支援している。トイレの場所が分かるように声掛けの誘導を行っている。トイレ後に少し運動などを取り入れ、運動・排泄と習慣化を心掛けています。	利用者一人ひとりにの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うとともに、利用者の様子から声かけし、トイレでの排泄を促している。夜間、ふらつくリスクのある利用者には赤外線センサーで対応。散歩・体操(ラジオ体操・リハビリ体操)・野菜や繊維質の多い食材で自然排便に努めている。入院し、レベル低下でオムツ使用だった利用者が立位が出来るようになり、トイレで排泄するようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を提供したり、寒天や春雨など取り入れることとなるべく薬に頼らない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に応じ、好きな時間に入浴して頂けるように支援している。季節によってゆず風呂や入浴剤を使いながら日々の入浴を楽しんで頂いている。	基本的には週3回であるが、希望があれば何時でも入れるようにしている。皮膚感染防止対策として足ふきマットは個別に対応している。菖蒲湯やゆず湯で季節感を出すほか、入浴剤を使用したりして入浴が楽しめるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や起床に関しては、一人一人の習慣に合わせて対応している。居室の空調管理を徹底し心地よく入眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握し、理解している。薬に関して何か不明な点があれば、医師や薬剤師に質問できる体制が整っている。また、服薬介助に関して、嚥下機能が低下している人に関してはトロミ等を使用してむせ込まないように支援したりなどその人によって服薬方法を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の残存機能を活かして頂くため、家事等をお手伝いして頂くことで自然とやりがいや役割が持てるように支援している。また、レクリエーションや季節の行事なども多く取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩やドライブ等、外出できる機会を計画立てて作り季節を感じて頂けるように支援している。また、利用者様の希望に合わせた外出も行っている。地域の理髪店や洋服店にも出かけている。	天気の良い時には、日常的に散歩や買い物(コンビニ)に出かけている。日中の余暇活動として月1~2回は外出する機会を設けている。(牛久大仏・筑波山・袋田の滝・笠間稲荷・外食等) 訪問時の翌日はひたちなか公園へ利用者全員で行く計画がされていた。外食・理髪店・洋品店などの利用者希望による外出支援も行っている。法人全体の靖国神社への参拝・運動会は家族と一緒に過ごす機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている。一緒に買い物に出かけ、好きな物を購入できる環境を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や要望がある際には声をかけて頂き、いつでも電話が出来るように支援している。手紙に関しても同様の対応を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは季節に応じた掲示物を取り入れ楽しみながら生活出来る空間づくりを心掛けている。居室内には使い慣れ親しんだ物を持ち込み使用して頂いている。	季節を感じさせるクリスマスの装飾品が飾られ、壁には当日のメニューと大きな手製の日替わりカレンダーが利用者の目線の高さに掲示されていた。外出時やイベント(スイカ割り、敬老会等)の写真も張り出されていた。風呂場・トイレは利用者によりわかりやすい大きな文字で表記され、見当識に配慮されている。時代劇・邦画のDVD、金魚鉢や犬の好きな方の為に犬の写真が置いてあり、生活を楽しませる配慮がされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファや和室等を配置し、好みの場所で一人一人が過ごして頂けるようにしている。また、時代劇・邦画のDVDや本をご用意し飽きない工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や仏壇などを持ち込んで頂き、ご自身の生活に合わせ、洋室にも和室にも出来るようになっている。また、ご家族様の来館時に季節ごとの馴染みの物をお持ちいただいたりしている。	居室入り口には表札を掲示し混乱防止に努めている。使い慣れたタンス・テレビ・椅子・テーブル・仏壇等を安全に配慮し配置されている。家族写真・アルバム・ぬいぐるみ・観葉植物・誕生日の色紙や外出時の写真等が飾られ、利用者が居心地よく過ごせるようになっていた。掃除やゴミ出しは出来るだけ利用者に行って頂く。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の生活レベルに合わせた安全な環境作りをしている。居室や共用スペース、トイレなどに手すりを設置したり、その方に合わせた階段やスロープの使用を選択して頂いた上で自立支援に努めている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームいっしん館いなり

目標達成計画

作成日: 2020年2月17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	往診受診記録に家族連絡欄があるが、記録がない(内容は記録されている)連絡日・連絡者・家族(誰に)を家族連絡欄に記入することが望ましい。	スタッフ、ご家族様間で情報の共有を密に図り常に協力できる体制を整える。	・受診、往診時の報告の徹底。また、報告した内容も記録に残す。 ・特変時以外にも、変わった様子などが見られた早い段階でご家族様に相談をかけ施設側とご家族様で利用者様を支えていく。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。